

ひのきシートはしなやかなので、編む、織る、染めるなど、様々な使い方ができます。その特性を活かし、ぞうり、うちわ、行燈など数々の作品が生まれました。

池田さんは作品を地域づくりに役立てようと、自分が持っている技術を他の人へ伝え、広げていくため、平成16年に海虹路を立ち上げました。ひのきシートを使ったクラフト体験を通して、「尾鷲ひのきや、それを取り巻きシートを使つたクラフト体験を通して、『尾鷲ひのきや、それを取り巻いて、『尾鷲ひのきの結婚式で使われました』『ブーケ』実際の結婚式で使われました』『行燈』飾りの部分は、ひのきシートを染めてあります。すべて池田さんの作品。」

ひのきシートは毛糸のように伸びないので、編むにはコツが必要です。



ひのきシートのクラフト作品



田原屋



ひのきシートの製品は田原屋で購入することができます。お店は尾鷲市街に残る旧熊野街道沿いにあるので、熊野古道を歩くお客様が多く訪れます。

三重県尾鷲市中井町7-24
TEL 0597-22-0470
営業時間 10:00~18:00
※不定休(お問合せください)



「ぞうり」
履くほど柔らくなり、足に馴染んでいきます。



「へむへむ」(食器用たわし)
洗剤を使用しなくとも汚れが落ちると評判です。



「ひのき割箸」
防腐剤などを使用していないので安心して使えます。



削ったばかりのひのきシートからはひのきのよい香りが広がります。

池田さんをはじめ、メンバーのみなさんは学校や公民館などで、クラフト体験会を行っています。また、さらに活動の輪が広がっていくようにとインストラクターの育成にも力をいれています。

尾鷲ひのきを守りたい

池田さんが考案した大人気製品「へむへむ」は、ひのきシートを編んで作られたたわしです。このように編むために使用するひのきシートは、編みやすい厚さなどの要望にあわせて、近

所にある山本木工所の山本昌さんに特別に削つてもらっています。

現在、木材価格は低下し、採算が取れないために林業従事者は随分と減つてしましました。かつて尾鷲市内に多くあった建具屋もほとんどが辞めてしまつたそうです。このような状況のなかで、「植える・育てる・伐る」という緑の循環がうまく成り立たなくなつてきていました。

ひのきシートは丸太から柱材を取りつて、残つた外側の部分を利用しています。池田さんから注文を受けると、山本さんはシートが一定の幅や長さ、厚さになるよう調整しながら機械で削つていけるのは、長年培つてきた技術があるからです。山本さんは元は建具職人でしたが、30年ほど前から尾鷲ひのきの木工所を始めました。高級木材といわれる尾鷲ひのきをもつと身近に取り入れてもらいたいと、ま

山本さんは「尾鷲ひのきの良さをたくさん的人に知つてもらいたい」という同じ想いを持っているから、池田さんに協力したいんだと話してくれました。山本さんは「尾鷲ひのきの良さをたくさん的人に知つてもらいたい」という同じ想いを持っています。だから、池田さんに協力したいんだと話してくれました。